



## 国勢調査2020

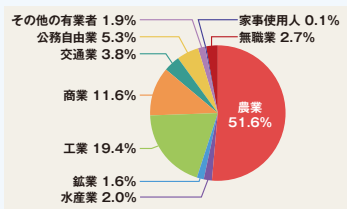
### 国勢調査の趣旨

国勢調査は、統計法に定める基幹統計調査として、同法第5条第2項の規定に基づき実施する人及び世帯に関する全数調査です。調査で得られた結果は、国及び地方公共団体の各種行政施策はもとより、企業、団体その他各方面の利用に供されています。

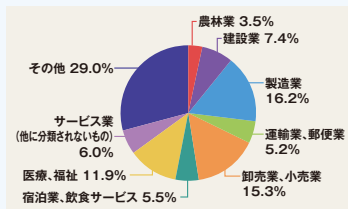
大正9年(1920年)の第1回調査以来、国の最も基本的で重要な統計調査として5年ごとに実施されており、令和2年(2020年)に実施する国勢調査は第21回にあたり、実施100年の節目の年を迎えます。



第1回国勢調査のポスター



職業別本業者の割合(%)  
第1回(大正9年)国勢調査結果



就業状態等基本集計(%)  
第20回(平成27年)国勢調査結果

### 国勢調査マメ知識① 第1回国勢調査で1番多かった職業はなに？

第1回国勢調査による職業別本業者の割合によると、農業が本業者全体の51.6%と圧倒的に多く、過半数を占めています。第2位は工業で19.4%、第3位は商業で11.6%となっています。

なお、この調査の「農業」には、農作以外に、造園、園芸、牧畜、養鶏、養蚕、林業、狩猟なども含まれます。第2位が工業となっているのは、大正3年(1914年)から大正7年(1918年)まで続いた第一次世界大戦とその後の復興のために、様々な製造業が発達したためと思われる。

「農業」について、前回(平成27年)調査結果と比べてみると、「農業・林業」という分類は就業者全体の3.5%と、第1回調査結果の「農業」の割合と大きく異なっていることがわかります。

調査年ごとに産業分類の改訂を行っているため、正確に比較をすることはできませんが、第1回調査結果で最も就業者数の多かった「農業」をはじめとする、いわゆる第一次産業からサービス業等のいわゆる第三次産業への変遷を知ることができます。

### 国勢調査マメ知識② 初めての国勢調査の費用はいくらかった？

調査費用の総額は295万7,000円でした。これを米価を基準に現在の価値に換算すると、大正10年(1921年)の米1kgの平均的な販売価格が35銭50厘であり、平成30年(2018年)発表の総務省の記録<sup>\*1</sup>では1kgは432.4円となっているので、現在の36億170万9,296円に相当になります。なお、当時の大卒初任給が50円<sup>\*2</sup>であったと言われていたので、それを基にするならば120億円近い金額となります。

\*1:総務省統計局の小売物価統計調査(平成30年8月24日発表)

\*2:安元稔「近代統計制度の国際比較—ヨーロッパとアジアにおける社会統計の成立と展開—」(日本経済評論社2007年)

日本の未来をつくるために必要な、大切な調査です。令和2年国勢調査へのご協力・ご支援をお願いします。

【参考】総務省統計局 HP  
URL: <https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/ayumi>

【お問合せ】磯子区総務課  
電話 750-2316 FAX 750-2530